

公開シンポジウム

第6回〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉

- 日時 2013年11月9日(土)13:00~17:00(開場 12:30)
- 場所 日本大学藝術学部 江古田キャンパス 東棟1階 E102 教室
- 主催 NPO 法人放送批評懇談会 ギャラクシー賞報道活動部門委員会
- 後援 日本大学藝術学部放送学科
- 入場無料(定員 100 人) 事前の申し込みは必要ありません

今年で第50回を迎えたギャラクシー賞にはテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門があります。このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。これまでにテレビ朝日の「ザ・スクープスペシャル 告発! 警察の裏金疑惑」シリーズ、札幌テレビの「がん患者、お金との闘い」シリーズなどが大賞に輝き、ラジオ局やケーブルテレビ、コミュニティFMなども受賞しています。

しかし、これらの優れた報道活動は放送エリア外ではなかなか視聴することができません。そこで、ギャラクシー賞報道活動部門委員会では2008年から毎秋、東京で〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉を開催してきました。報道活動に携わった制作者たちを招き、報道活動部門委員会の選奨委員、テレビ報道やジャーナリズムに関心を持つ研究者や視聴者、学生が一堂に会し、議論することは、放送界の明日にとって意義深いと考えます。

今回は、第50回ギャラクシー賞報道活動部門大賞・優秀賞を受賞した3作を取り上げます。南海放送(本社・松山市)の大賞受賞作は、アメリカが1954年に太平洋のビキニ環礁で行った水爆実験の被害が「第五福竜丸」だけではなく、多くのマグロ漁船に及んでいた事実を粘り強く発掘しました。9年間の取材成果を集大成したドキュメンタリー映画「放射線を浴びたX年後」は各地で自主上映され、この上映活動を含む報道活動は高く評価されました。

沖縄テレビの優秀賞受賞作「復帰を知る」は、沖縄の本土復帰40周年を迎えた2012年、「復帰とは何だったのか」を当時の関係者たちに取材し、ローカルニュース枠で多角的に伝えたシリーズ企画です。福島放送の優秀賞受賞作は、福島原発事故によって警戒区域に指定された南相馬市小高区で農地復旧に取り組む農民たちに寄り添い、長期間にわたって追いました。制作者、研究者、視聴者を問わず、多くの皆さんの参加を望んでいます。

〈会場へのアクセス〉

- 最寄り駅 西武池袋線 江古田駅
(池袋駅から各駅停車で3駅、6分)
- 江古田駅北口から徒歩3分

◇ゲスト

南海放送ディレクター(「放射線を浴びたX年後」監督) 伊東英朗
沖縄テレビ「O-TVスーパーニュース」キャスター 平良いずみ
福島放送報道制作部記者 鎌田侑樹

◇司会 ギャラクシー賞報道活動部門委員長 鈴木嘉一

このほかに、報道活動部門選奨委員がパネリストとして参加します。

〈問い合わせ〉

■放送批評懇談会 03-5379-5521(平日10時~13時/14時~18時)

